

頭書  
大全

世界國盡

南亞米利加洲  
大洋洲

附錄  
卷之五六  
再刻

世界國盡  
卷之五六

291.

H826.2



南亞米利加之事  
 南亞米利加之洲の人  
 の數ハ九一七  
 百萬人の子孫多  
 或ハ土人と歐羅  
 巴人との間小生  
 たり者あり但し  
 國を支配する者  
 歐羅巴人の種あり  
 山林深くして草木

世界國盡卷五

南亞米利加州  
 巴多馬以地橋  
 系里太平洋海峽  
 羅海左右小分  
 山の脈の通れ



国立国会  
 29.10.19  
 図書館

348374



茂て阿非利加等  
如き不毛の地あり



南のまじり岬  
まはるる一万余  
里陸に不毛れ変化  
なくそ来し舟の一天  
洲より別なる島あり

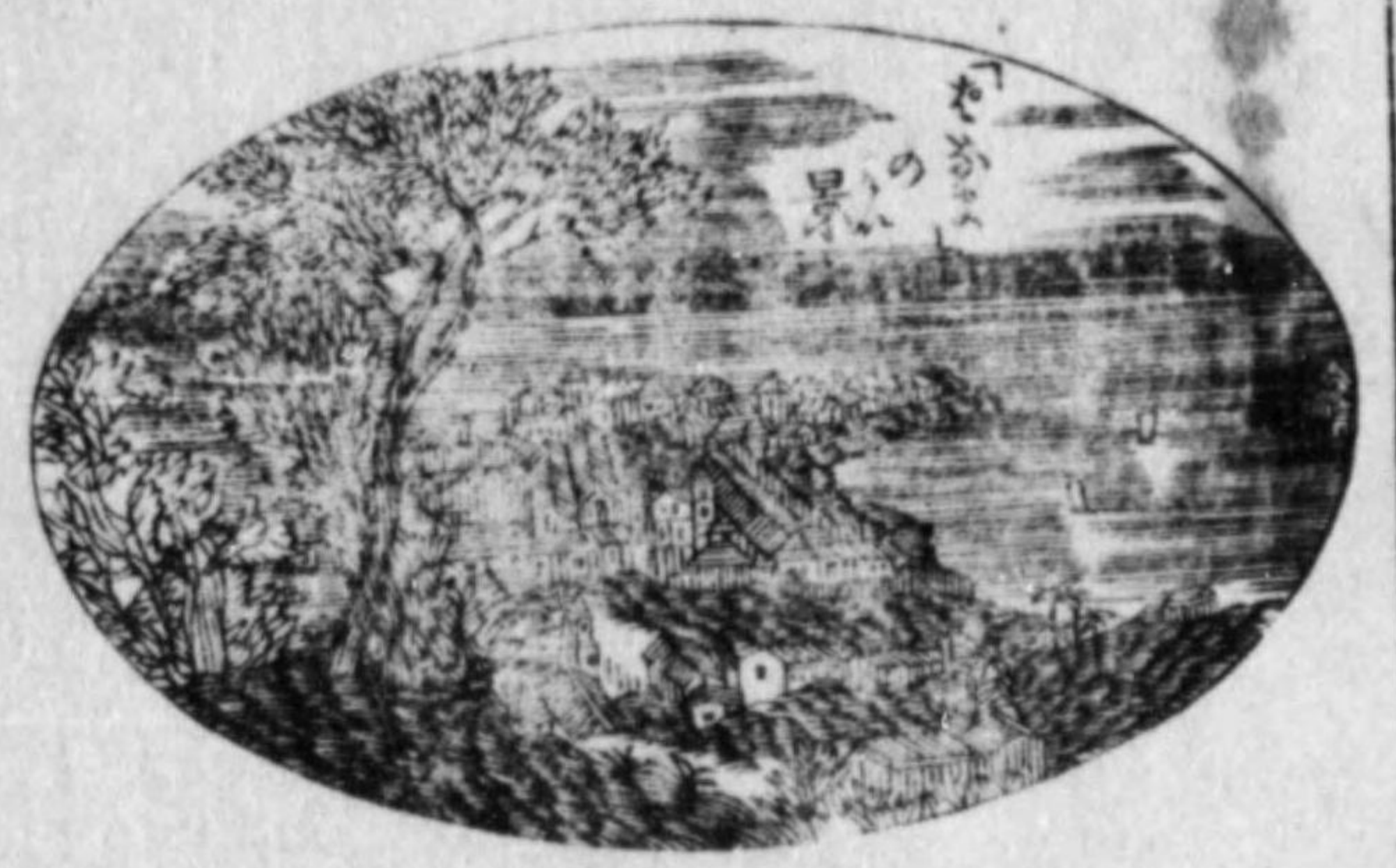
○古論備屋ハ國を  
八洲小分ち巴奈馬  
も其中の一州あり  
東の世界ハ末洲  
西の世界ハ巴奈  
馬とて地理の模様  
相似たる地峽あり  
但し巴奈馬の地峽  
ハ僅ハ二十里をう  
そあきとも山嶺小

北の方よりかきこれ  
共和政府れ古論  
備屋南のまじり赤  
道國志を直かす  
山阪高き

世界國盡卷五



ていさく 堀割り出で  
来きたが 蒸氣車の  
道あるのと



高望み北より理を  
以て天へ勝ら夏  
熱くく空かそい  
四時月々如春の野  
一程奇く世もてん

○赤道國とハ赤道  
の下に當るや斯  
く名つけたるあり  
部根重良も暖國の  
てよく物を生む此  
邊ハ地震多きが  
故に家の作皆低し  
其都をハるゝと  
以ふ千八百十二年  
の大地震ハ残らざ

列々も農の時を  
二連速く東の方  
部根重良國の  
由依政事地理山  
川の程様まて鄰の



つぶきたるに  
と都て南亞米利加  
ハ地震の甚もど  
き地ちかり



國一異ありは又  
到一の五井梁ハ南  
北ん七千里東西  
六十里土地は廣袤  
分二一一分一榮併

○武良尻ハもと葡  
萄牙の領分なり  
か近來獨立し千八  
百二十二年小至て  
帝國と名を南亞  
米利加の内にて第  
一の大國あり國政  
寛くして教育の法  
行届き日耳曼及び  
瑞西より家を移し

英の三箇國名有つ  
る一西部は世界  
の物産多く是の富  
はたすくは人此  
助は被しは不羈獨









保里備屋巴羅貝等  
の諸國も皆合衆政  
府おまども土地い

母に風俗を遠く  
慕はるを稱する  
人と野に東南に  
は保里備屋巴羅  
貝守柳貝良富羅

す開らるる固よ  
蒸氣車の路もあ  
く徒歩にて往来を  
るふも山阪の間  
難多し荷物を運  
送るふハ大抵人  
馬のこを用や或ハ  
谷川に繩の橋を架  
て往来する恵り  
木曾の掛橋の如し

多越るる巴多吳  
仁屋土地に風俗人  
情を大略同し共和  
政み多るるの濃戸に  
麻濃蘭が濃上を



風流人ハ悦ぶ事  
おもども日用の不  
便利ハ夥シ



山林の深きハ武良

火の法ハ亞米利加洲  
の産物ハ南洋  
水ハ池鯉の國安天  
次山ハ麓ヲ南  
ハ百千里東西僅

尻のこあらど南亞  
米利加洲何をも同  
襟カク深山の奥ハ  
至まハ草木森々ト  
一ト熊者の跡も見  
へど椰子の一聲百  
獸戰慄群猿月ハ呼  
べハ旅客も心を憚  
すハ開闢の始よ  
といふと人工を経

一百里天氣可居の  
ガ後ハ世界  
比類多クハ赤道  
以南の土地ハ水ハ  
夏秋冬異ありて我



ざるの地おきバヤ  
 の景色如何おも  
 のをこ—山静か  
 て太古の如しとハ  
 此邊の有様を味ド  
 たるものあらん又  
 暖帯の地ハ大ホ  
 万蝮蛇はさて折々  
 人を害もと以ホ恐  
 る所ハことあり

六月ハ彼れ冬彼れ  
 矣暑ハ我乃冬寒  
 暑ハ順ハ天如水見  
 四時正しく作物多  
 作物成て豊なる至

人蛇  
 地馬  
 害公



○火の國ハ南の端  
 不離をたハ鳴あり  
 此鳴ハ火山多き

の合二百萬諸海  
 序獲れ共和政民此  
 教育於ては法方  
 一建て學問所措  
 古以人教之業人係



中人斯く名けし  
 花岬の名をまんぶ  
 不ふらんといふ其  
 地理東の世界の書  
 望嶺か似たを此邊  
 の土人ハ風俗甚と  
 陋しく人の肉を喰  
 ふものやう饑饉を  
 どの時ハ犬おて  
 も猫おても喰たぞ

すむ文の  
 富強と伴て其の行  
 未の幸福は期し  
 安天須山は

るものふしことお  
 老姫の肉を賞説  
 るとぞ



まんぶ  
 不ふらん  
 の景

まねりし達必ハ平  
 柳必人口ニ百甲  
 土地下生るる産物  
 ハ子穀金銀綿砂糖  
 此と積るる其の豊



○地理も西班牙の領分ありて千八百十七年以來獨立して共和政府とありて近年ハ次第に國政を改革して文武とも小盛あり四五年前西班牙より軍艦を差向けしと度々ありとも遂

貴た名は平柳國の幾那如皮を製を紫那塩を天下無類の解熱劑也  
 此は病人を救

○平柳ハ千八百二十四年ハやくちよの戦ひて西班牙の

那塩を以て苦を忘  
 水はよくよく飲む  
 人彼令病苦を忘  
 地理乃薬物也



の手を離し獨立の  
 共和政府とあきて  
 首府の名を「マニラ」  
 といふ海岸に近し東  
 の方へ離れていく  
 ことゝいへる都會の  
 此國も近來ハ次  
 第に繁昌して南亞  
 米利加の内ふて  
 上國の名あり



平柳の海岸ハちん  
 ちや「るなきあどい  
 へる小嶋あり此邊  
 ハ夥しく海鳥の集

之は事「マニラ」の  
 町に「マニラ」の  
 河「マニラ」の  
 と再「マニラ」の  
 世界中心に國あり

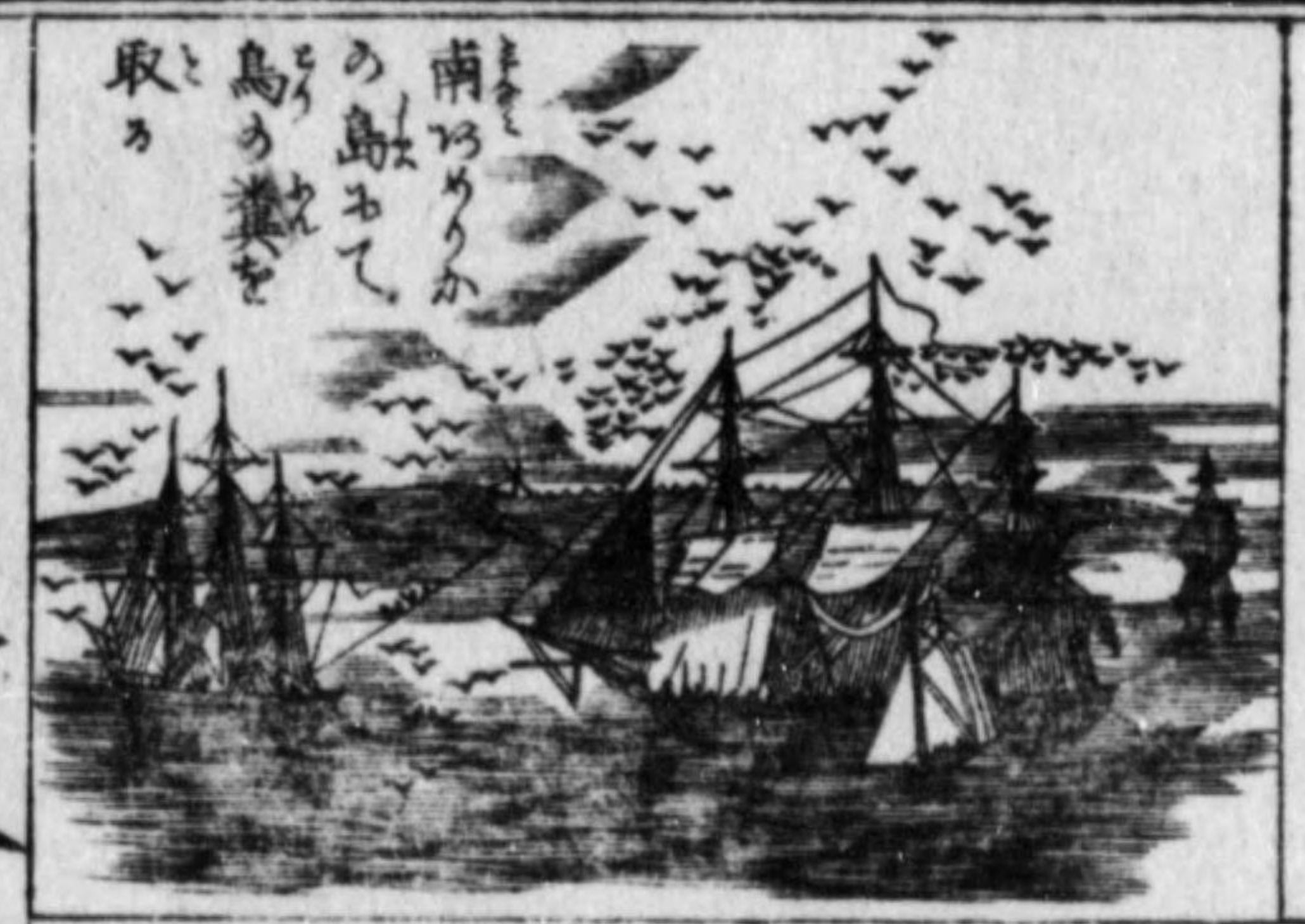
亞細亞「マニラ」の  
 羅「マニラ」の  
 北南「マニラ」の  
 大略「マニラ」の

十一  
 十二



飛とべば其その影かげ天あまをおほ覆おほ  
 其その聲こゑ數かず里り不お聞き不お數かず  
 千せん年ねん來きたり鳴なはり積たまりりし  
 鳥とりの糞堆たいくらして山やま  
 の如く三十年ねん以い來らい  
 歐おう羅ら巴ば人にんの思付おもひ小  
 て此糞ふんをと取とりて畑はたけの功能こう  
 こやい小用ようて功能こう

ひなのなままのしりし  
 しん世よのなをしりし日ひ  
 臨りん波はのしりし世よをしりし  
 港みなとのしりし世よをしりし  
 島しまのしりし世よをしりし



乃なほ近ちか來きハ追々つ世よ  
 不お知しりし既すでに小日ひ本もと  
 一ひとも持渡わたりしよし

大洋洲  
 太平洋の島々  
 千の島々  
 細島  
 南



大洋洲の事  
大洋洲とハ太平洋  
の嶋々を集りたる  
名目あり土地の廣  
き次集まハ九そ四  
百五十萬坪人口を  
二十五萬余赤道  
の近傍にあり諸島  
も天然の産物甚  
く多し胡椒も

海岸に之を群る是  
澳磨多羅保留根  
尾爪哇滋禮部次  
呂宋次擇洲新銀  
石西洋次是支砒乃

樟腦象牙砂糖こつ  
ひ黄金銅錫石炭  
も澤山あり爪哇須  
磨多羅保留根尾  
禮部須新銀名須  
洲等ハ和蘭の領分  
にて本國政府の臺  
所あり以ふる地  
あり呂宋の近傍に  
あり嶋ハ西班牙よ

地赤道より暖帯  
に生るる物  
物以遠くたり人  
本國に衣食を供  
ふるは是れ富



てニ其領其都  
を治すらしといふ烟  
草の名所あり唐人  
ハ巻煙草のこゝに  
呂宋烟と唱る不  
のこゝあり都て此  
邊の嶋々に住居  
る人ハ島人の種類  
おて風俗甚だた陋  
く歐羅巴人の支

利用の經濟を多  
れ浪の於水多  
理の多航海の術  
が研うた文明  
勇と知後之功

配を受けてニ其  
へて或ハ山の奥  
籠て獨立せられたり



ん南より毛りき一  
世界を昔より此の地  
見せし和蘭人の  
不中此を新和蘭  
と存しし今其



○澳大利亞の本名  
ハワムタタラハ  
ヤとハハハハハ  
るとハ南とハハ  
とハて亞細亞洲の  
南ハハハハハハ  
名ハハハハハハ  
五年即ち我慶長十  
年の頃和蘭の人始  
てこハハハハハハ

石と河とたまり英  
吉利領ハ澳大利亞  
東西ハ里南北の度  
ハハハハハハハハ  
人口ハハハハハハ

和蘭と名けたるさ  
もども和蘭の本國  
ハハハハハハハハ  
の領分とハハハハ  
ハハハハハハハハ  
十九年即ち我明和  
六年英吉利の航海  
者ハハハハハハハハ  
る者世界中を航海  
して此地ハハハハ

内地の王様を  
ハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハ  
ハハハハハハハハ



や其模様を詮索せ  
て其後英吉利よ  
罪人を流し次第  
人の種も増て遂  
英吉利の領分と  
きり其土地の廣  
あること歐羅巴  
を六小分て其五  
不當きり故に近  
ハことを嶋と唱へ

以て序保留此屋の  
有り其年之移を  
以て黄金の幾多其の  
限り録を以て是  
と云ふは一港の女



て  
洲といふものなり  
て

澳大利亞ハ土地の  
割合小して人の數

留保論志戸仁の市  
此交易の目一賑ふ  
衣食住みまはれ海  
の新世界案の時を  
近しん南の奇り



少一百万四十万人の内土人ハ僅ハ五萬人其餘ハ皆歐羅巴人の種あり南東の海岸ハ土地柄よく繁昌せり志戸仁の港ハ東海岸ハ南の方ハ女留保論といふ都會ハ第一屯んう都ハ

多壽可めは屋東了  
まありせは伊蘭土皆  
英吉利ハ支配受  
け人口各十余萬  
天氣時疾し中和

殊この近傍ハ金山のるゆハ益繁昌するより



○新地伊蘭土も英

以得新地伊蘭土を  
英吉利ハ義一當  
て本國とひひ今  
る是の礦畫和の時  
利倒よ英の夜本



吉利の領分ありて  
 地の模様はよまた  
 らるや不同ト土人  
 ハ皆休小不其もの  
 をその風俗あり



この島と英吉利と

は此地の畫ありて  
 水は彼地より明  
 け、英吉利王は傾  
 け、日の没し、時  
 となり、新地伊索

昼夜の異なる所以  
 ハ地球の圓くして  
 廻る理合を考へて  
 合点を畫し



出北東教子の島  
 以通越赤道  
 越北の方山遠  
 地の崎々人口僅七  
 人出地を狭くし



○山土逸地ハ千七百七十八年カビタ  
 ンコクノ見出セ  
 島ホテ同人ハ此嶋  
 人ハ殺サキタリ人  
 ノ住居モ島ノ數  
 ハワケ王風島ノ隣  
 有ルモ此ハ一モ  
 ン大ヒヤル島アリ  
 火山多ク産物ハ砂

國古平海北北方  
 獨モ以テ一北程を  
 占ル鯨樺船北可  
 変王風嶋の花獨  
 嶋一ノ交易場矣

糖小麥綿烟草  
 澤山あり

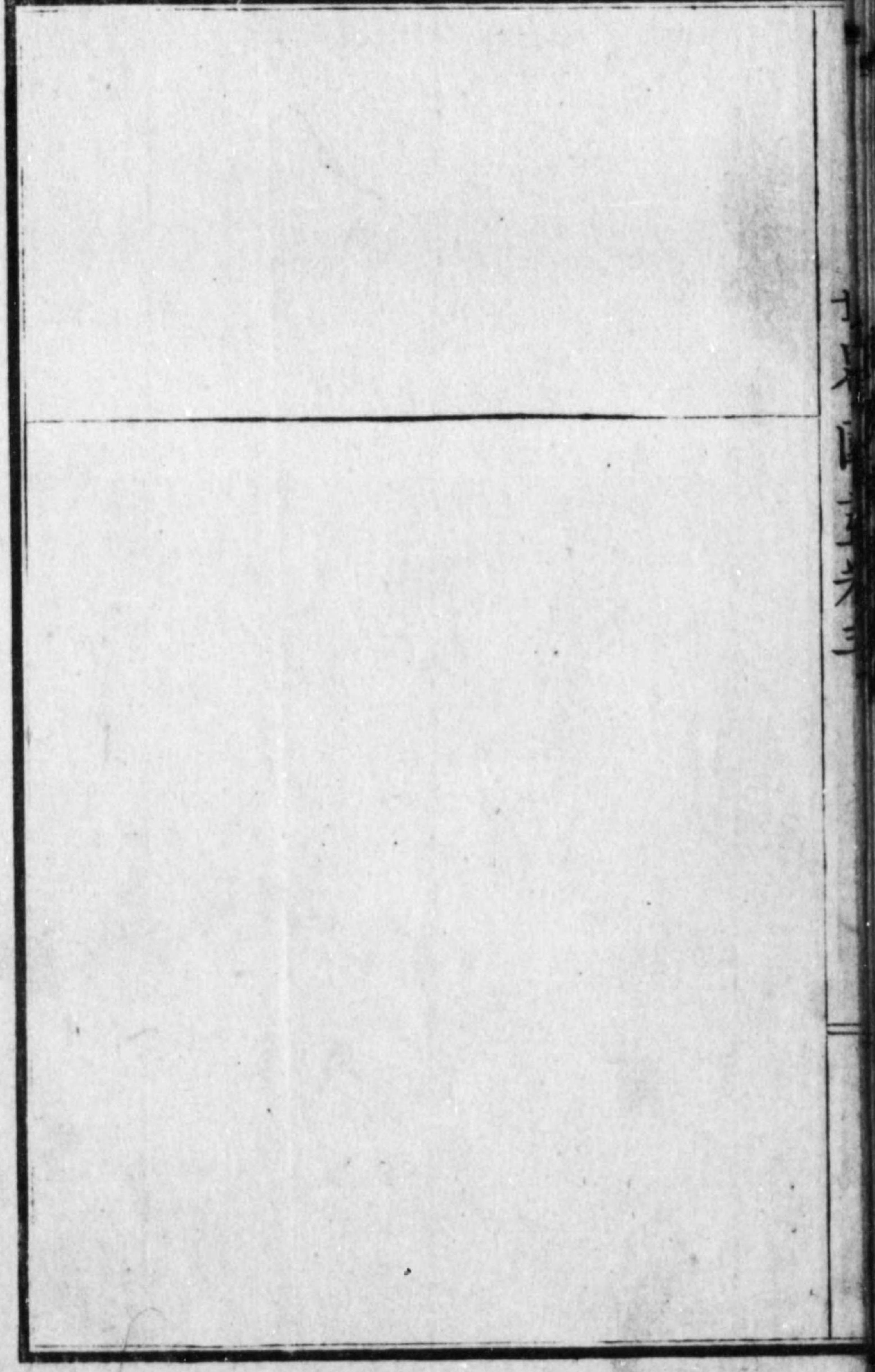
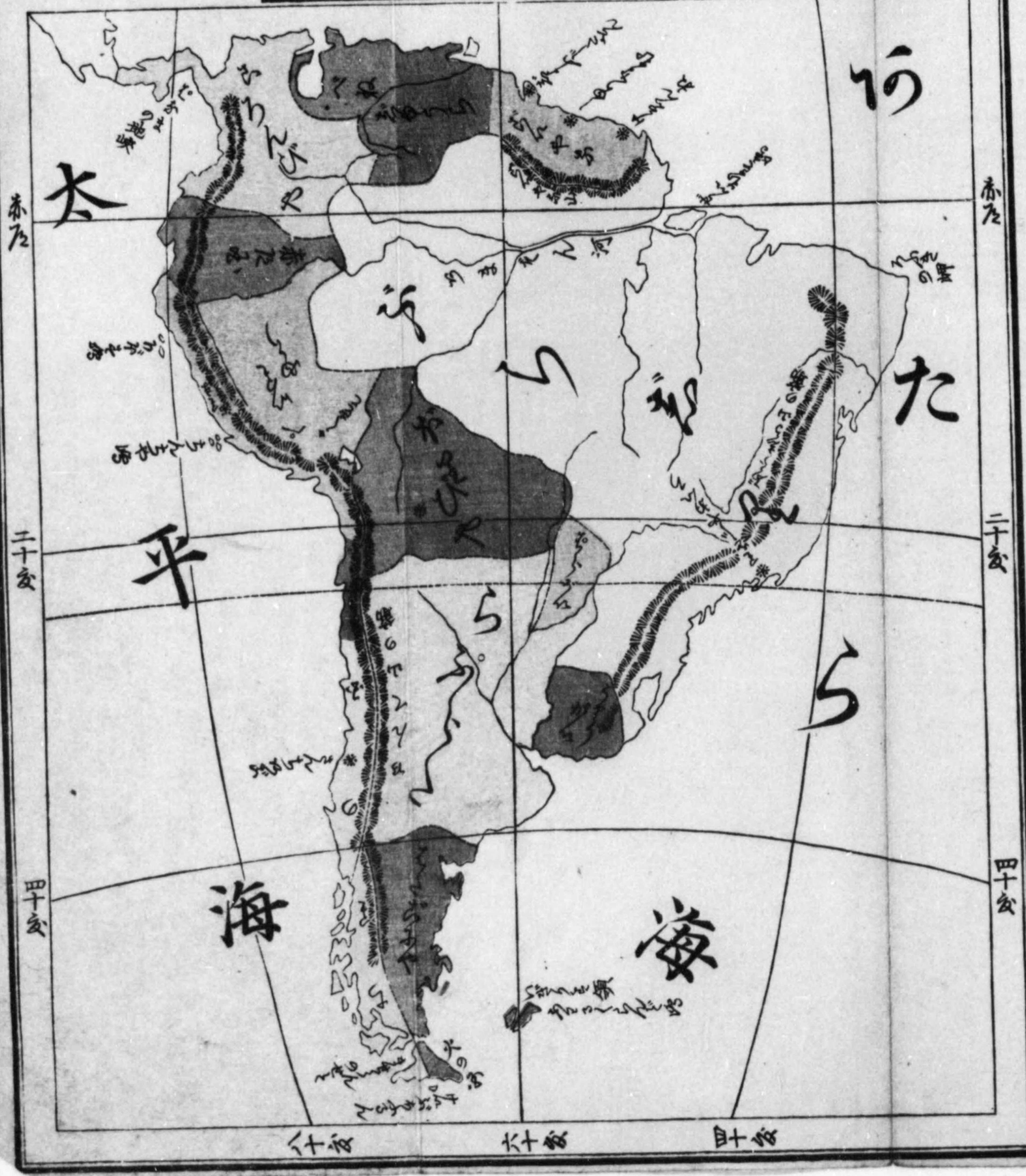


火山の絶頂の景

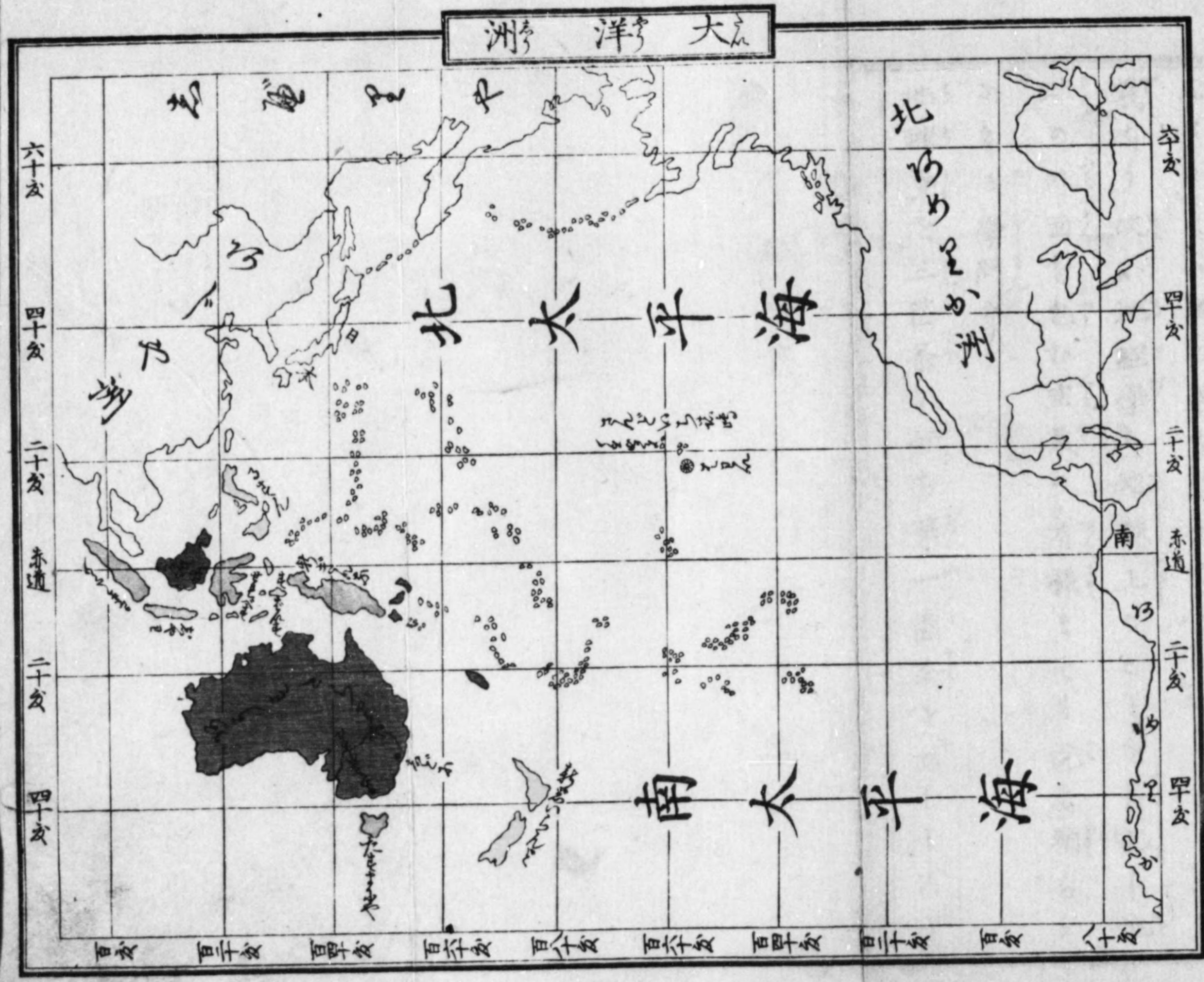
亞細亞の船ハ一  
 島のの高賣  
 土地ハ一ノ販  
 世界國盡終



南亞米利加洲







卷三

大洋洲

六十度

四十度

六十度



世界國畫附録

地理學の總論

地理學ハ西洋の語（西語）にて「（西語）」（西語）がらひ（西語）といふ  
 およ「（西語）」とハ地（西語）の義（西語）あり「（西語）」がらひ（西語）といふ  
 義（西語）あり故（西語）ハ地理學（西語）ハ地球（西語）上（西語）の事（西語）を書記（西語）一（西語）地  
 球（西語）の外面（西語）を包（西語）む空氣（西語）の有（西語）様（西語）まで（西語）説（西語）き明（西語）ら  
 ぬ（西語）も（西語）學問（西語）なり  
 地理學（西語）を三箇条（西語）分（西語）ち第一箇条（西語）を「（西語）」と（西語）るの

世界國畫附録





第四大學區

第十九中學區

大東小學

とかる。おようがらひいといふ天文の地學といふ義あり。此箇条は於てハ地球を一個の遊星と見做し他の遊星と共に大陽の周圍を廻て四時寒暑の變化を起さふどのこととて論を第二箇条をひかる。おようがらひいといふ自然の地學といふ義あり。此箇条は於てハ海陸山川の區別草木禽獸の異同物産時候風雨雪霜の模様等を論を第三箇条をひかる。おようがらひいといふ人間の地學といふ義あり。此箇条は於てハ

人種言語の品類風俗政体の異同文學校藝の巧拙文明開化の前後等を論を

天文の地學

此世界も一個の遊星あり。遊星とハ圓き物にて空中を浮び日輪の周圍を廻て日の温氣と光とを受る星あり。此日輪ハ附屬の遊星數多し。もども大ひあるものハ唯ハ個の地球也。地球も其内の一なり。地球の圓き證據ハ



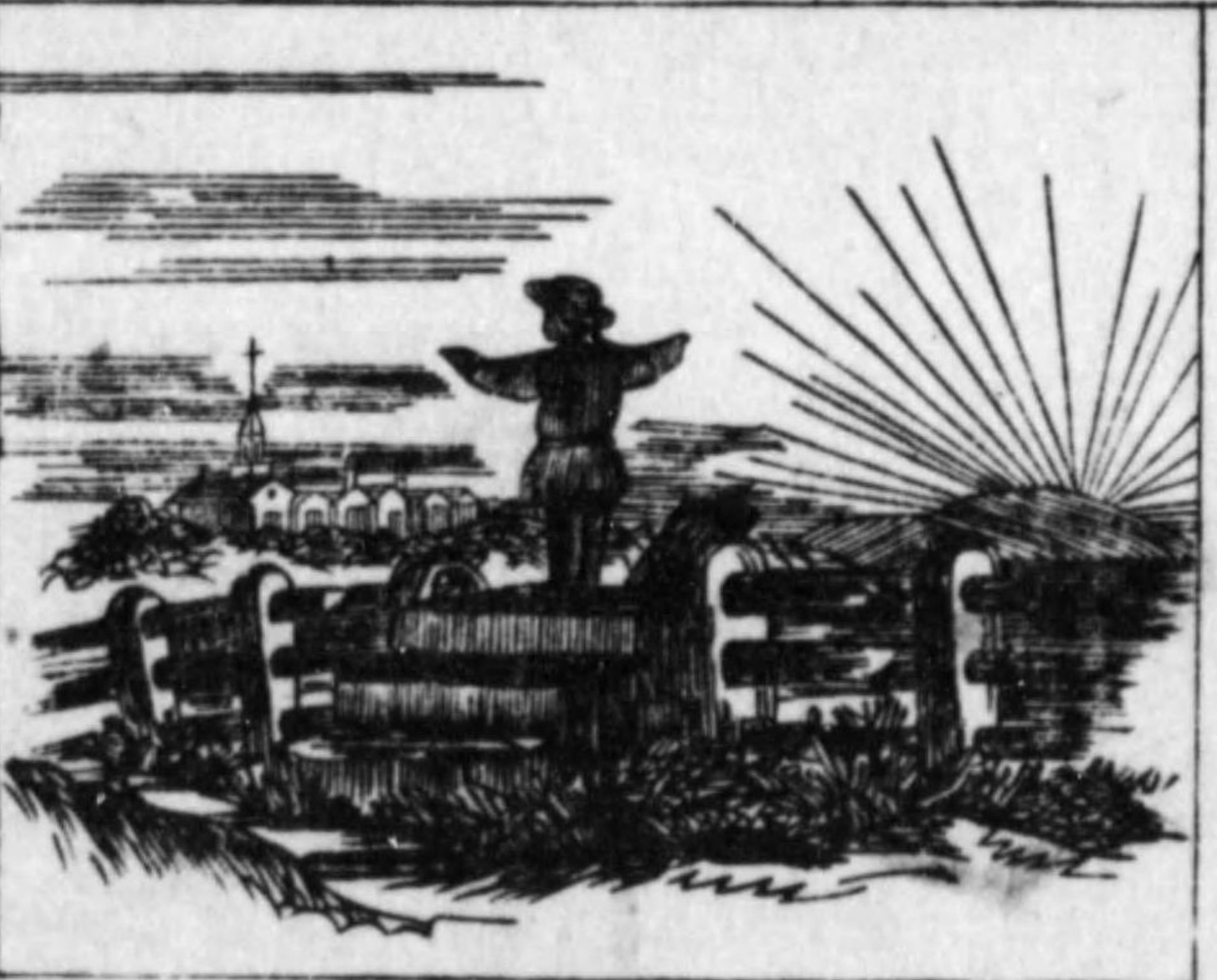


地球の周囲を一萬三百五十五里余り南北を  
 軸にして西より東へ轉び十二時の間は一廻を  
 終ることを一昼夜とも即ち地球の自轉あり斯  
 く自から轉ぶがら三百六十五日二分五厘の間  
 も圓きこと知るなり  
 地球の周囲を一萬三百五十五里余り南北を  
 軸にして西より東へ轉び十二時の間は一廻を  
 終ることを一昼夜とも即ち地球の自轉あり斯  
 く自から轉ぶがら三百六十五日二分五厘の間  
 も圓きこと知るなり

小日輪の周圍を一廻して本の處に歸ると日を  
 一年とを即ち地球の公轉あり斯く日輪の周圍  
 を轉廻する間ハ或ハこと近づき或ハこと小  
 遠ざかり且其光を真直に受ると斜に受ると小  
 由て寒暑一様あらざり四季の變化にさぐたれお  
 生ず但し赤道を界して四時相又し日本あり  
 の如き赤道以北の國の夏ハ「あふまたらるや」等  
 の如き赤道以南の國の冬あり本文南亞米利加  
 の篇に池鯉の國の冬ハ「我夏あり」と記したるも

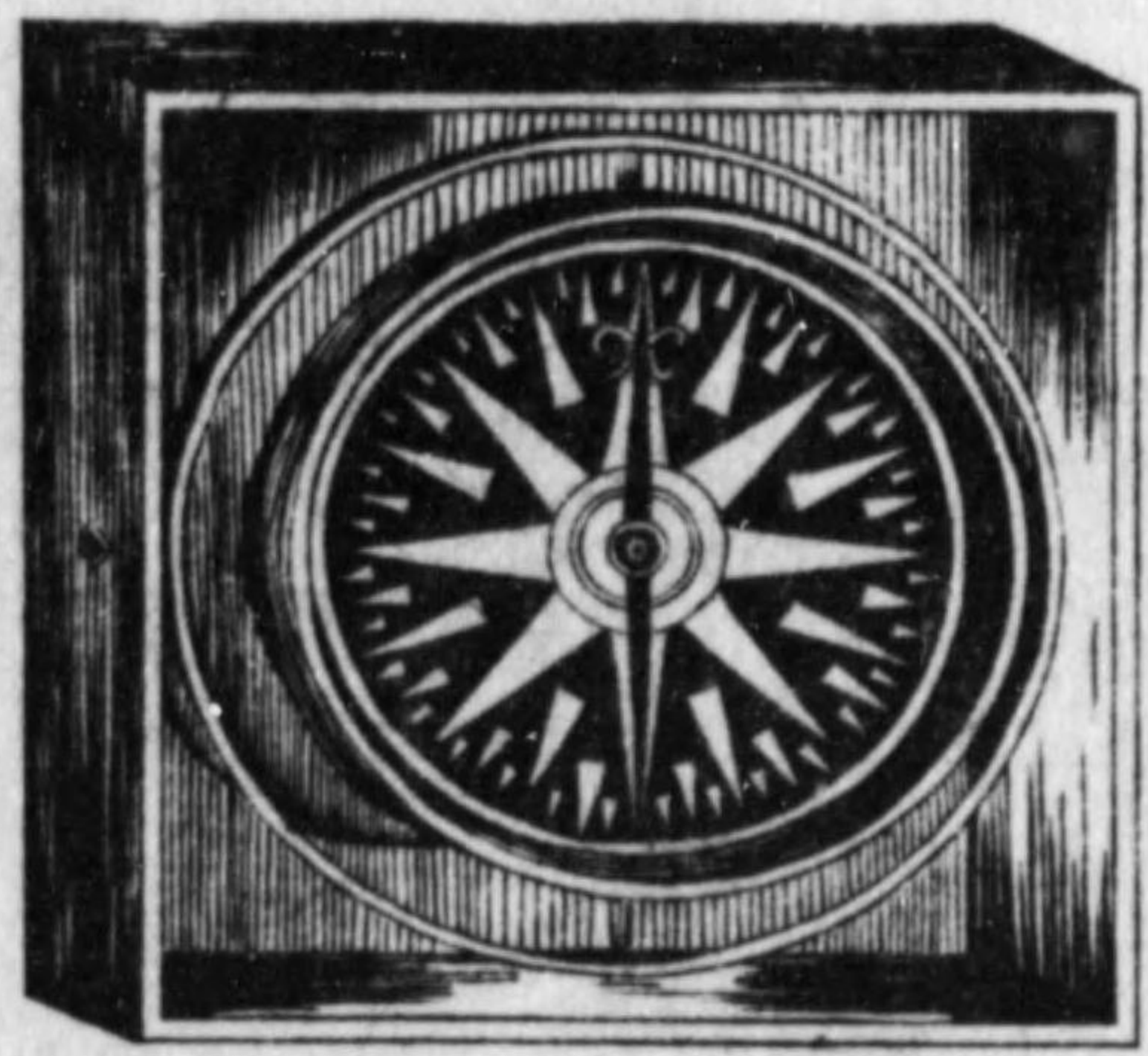


此國ハ赤道の南に在る中、夏冬相及まるあり



四方ハ東西南北を上の繪  
ハ一人の子供両手をひろげ  
右の手にて日が出る方を指  
まこの方東あり左の手ハ日  
の入る方を指まこの方西か  
て面の向ふ方ハ北にて背の  
方ハ南ありこの四方角を羅針盤の本点と名  
く羅針盤ハ航海ハ欠く危うとざる道具にて唯

羅針盤の圖

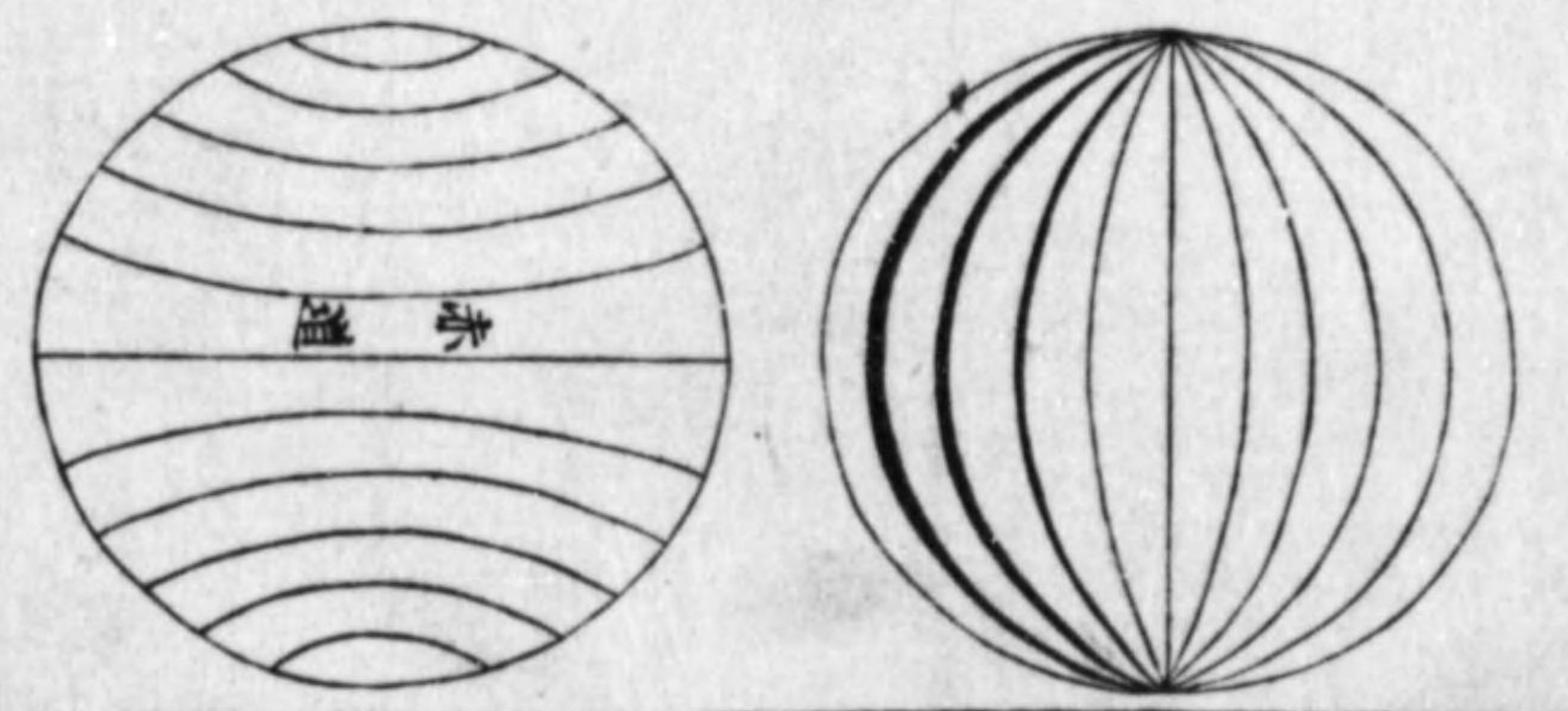


四方のミからを東西  
南北の間を分ち又其  
間を小分して細小こ  
きを盤面ハ記しその  
方角ハ從て船の道筋  
を定るものあり

地球の面へ縦横小線を引き南北ハ通る線を子  
午線と名け東西ハ通る線を平行線といふ地球  
の状圓き中、斯く縦横小引通したる線の状也



子午線 平行線 行



圓くして輪の如しこの圓き  
輪を三百六十に分てこきを  
一度と名け東西刻とたる  
を經度といひ南北刻とる  
を緯度といふ平行線を以て  
南北の緯度を計るハ真中  
の赤道を本として勘定を始  
む譬へバ地理の圖書中北  
緯三十五度といへバ赤道よ

北の方三十五度不當といふことふて日本  
又ハ亞米利加の北を不ろ小ヤアどの地ある南  
緯の方にも小同ト子午線ハ何もの地より始  
るも勝手次第おもども大抵地理書ハ英吉利  
地球儀小 地平 經緯  
經度緯度  
を刻とた  
る圖

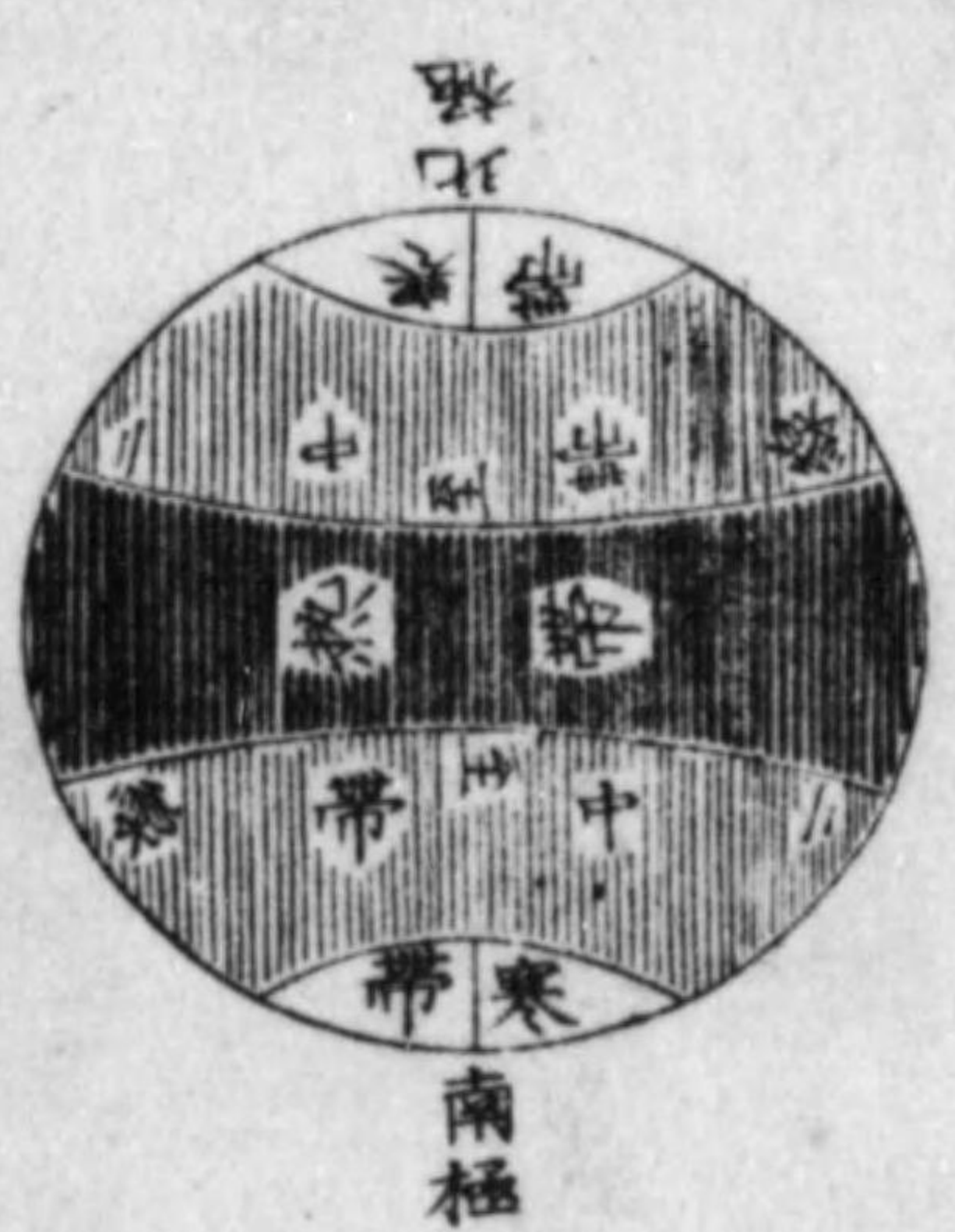


天文臺にて以  
んつちを以て本  
小立てて故ハ東  
經百四十度とい  
へバ英吉利の天



文臺よ東の方百四十度小當るといふこと小  
 て丁度日本國の處を新おいらんどハ東經百  
 七十七度南緯四十七度三十分小當と故本  
 篇小も新おいらんどの人と英吉利の人とハ足  
 のうらを向合せ小して昼夜相反するとのこと  
 を記せ

地球の周圍ハ英の里法小て二萬五千里何を  
 本の里數小まきハ一萬三百五十里余あり故小  
 こを三百六十小割たる一度ハ二十八里七合



六分四分余小當る但こハ赤道の處小て測  
 るもの小て南北の方小近よきバ次第小短く  
 あり其極小至まバ何もかくなり理あり  
 赤道より北と南へ二十三度半づの處小線を  
 引きこを二至線と名けこの間ハ時候熱故

小熱帯と名く又南北の極  
 小赤道の方へよること  
 二十三度半づの處小線  
 を引きこを極線と名く



この間ハ時候寒き由へ寒帯と名く極線と二至  
線との間ハ四十三度の廣さなりこの間ハ時候  
程よく春夏秋冬の順序正しき由へ中帯と名く  
中帯の人々を身体達者にして氣力の文明開化



の極度不至し是れも唯此  
方角小なる諸國の歐羅巴  
北亞米利加之合衆國支那日  
本等皆中帯の内小なり熱帯  
の地ハ草木よく生長し獅

駝鳥



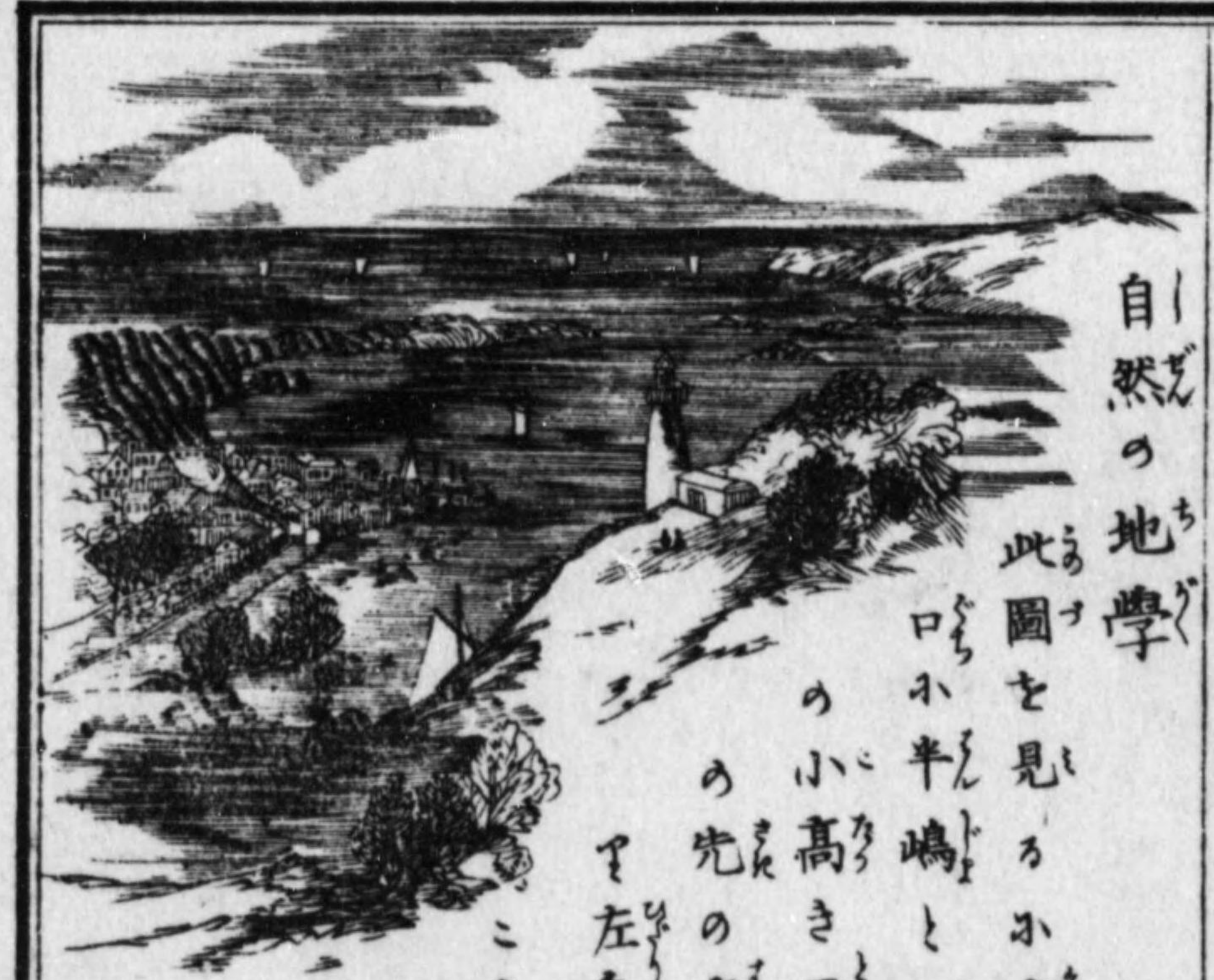
寒帯の獸類



子犀象豹虎蝮蛇等多し又或  
ハ駝鳥おどいなる大ひかり  
鳥の中帯寒帯ハ絶てお  
きをのあり寒帯の地ハ禽  
獸草木少く人の身体小短小  
して愚あり獸類ハ白熊馴鹿  
等あり都て寒地ハ生むる獸  
ハ皮厚くして毛深し天然ハ  
寒氣を防ぐためあり



自然の地學



此圖を見るに遠景ハ大洋ノ一河  
 口ハ半島ト二三ノ小島ヲ右  
 手ノ小高き鬼ハ燈明臺ヲ其  
 の先の方へ突出たるハ岬  
 左手ハ市中繁昌して  
 こまへ駈込む蒸氣車  
 りこの模様を見てあ  
 らま地理の區別  
 を知る地學の大趣  
 意を合点も亦一

本篇ハ地球の面三分ハ海一  
 分ハ陸ありこの陸地を三分  
 一分ハ亞細亞一分ハ非洲  
 一分ハ歐羅巴を東の半球と  
 一分ハ西の半球と一或ハ舊  
 世界といふ一或ハ新世界  
 といふ大洋洲も亦別ハ一  
 世界を合せて三世界あり  
 或はこれを三大地と名く西  
 洋の語ハこんちねんととい  
 ふ廣く續き土地といふ義あり  
 嶋とハ四方ハ海に在る土地  
 あり譬へハ英吉利麻田  
 糟輕久場等の如き皆嶋國あり



半嶋とハ三方水小して一方の大地方の大地不續きたるを以て日本にていへば肥前の嶋原の如きこ

嶋半の地狭の圖



地峽とハ大洲と大洲と續く夏々又ハ半嶋と大洲と續く如の狭き土地を以て管へバ亞細亞洲と阿非利加洲と續く夏々末洲の地峽あり南北亞米利加之界

小巴奈馬の地峽あり岬とハ海に突せたる陸地を以て阿非利加之南の端不喜望峯あり南亞米利加之端より北の地峽あり土地の高きものを山といふ但し地學に於てハ高さ千尺以上あるものを山と唱へ千尺以下ものを岡といふ山の高さを幾尺と計るハ海面より勘定したるものあり世界中の高山ハ印度のヒマヤ山を第一とす其高さ三萬尺に近し



即ち英吉利の里法にて五里余の高さありさま  
どもこそを世界の大小を比較をば見る不足ら



地球の中徑千六百  
分の一あり譬へばさ  
— 渡— 一丈六尺の玉  
五分をかきの贅あ  
るが如— 地球の大ひ  
あること思ひ知るべ

火山より火を噴き烟を出るものを火山といふ世  
界中其數三百ありこの内の二百ハ嶋國の山  
廣き砂原ニ雨降らざりて草木生長せざるもの  
を砂漠といふ阿非利加荒火野の砂漠こそあり  
日本ハハ砂漠あり  
大洋と外海のことあり實ハ世界中の海ハ其  
水の互ハ通ぜざる處ありゆへこそ一大洋と  
いふも差支なき筈なれども地理の模様ハ由て



分て五大洋とあせて即ち太平洋阿多羅洋印度

大洋



洋北極洋南極洋こ  
はあ  
唯て海と記し  
ハ唯て海と記し  
字を用ひ  
たのの  
大洋の深さを詮索  
せかまども  
だ確あるを知らむ  
その底小凸凹ある

ハ陸小山阪の如し其の最も深き處も陸の  
山の最も高きもの外等一かるべしといふ  
海とハ大洋より狭くして其周囲ハ陸地の近き  
ものをいふ地中海黒海の如きこもあり



湖水ハ淡水の集てた  
そのものなりその源を  
河よと流こる或ハ湖  
の底より湧せりもの  
もなり其せ口ハ又河



北亞米利加の合衆國と金田との界湖



船の碇泊を便に夏を港といふ  
一灣又ハ辨輕の入海等これあり其狭くして

おやて海へ入る世界  
第一の湖水ハ北亞米  
利加洲ハあり  
入海とハ三方ハ陸あ  
るて一方のみ外海へ  
續くものをいふ或は  
こを灣といふめき

谷川



瀬戸とハ海と海と續く狭き夏をいふおぶらる  
たるの瀬戸ハ阿多羅海と地中海と續く夏ハあ  
る下の関の瀬戸を周防洋と玄界洋との界目ハ

あり  
陸地の低き夏ハ流る水  
を河といふ河の源ハ或ハ  
泉より或ハ湖水より出  
づ雨雪の中山の中溜り  
その穴より流出て谷川



ふいやぐの滝



とあり次第小集て  
 て河とあり又合  
 々大河とあり遂小  
 海小入るあり南亞  
 米利加の「マヤどん」ハ世界第一の大河小して北  
 亜米利加の「ミシシッピ」ハ世界第一の長河あり  
 河の流るる路小て俄小低き處へ落るものを瀧  
 といふ合衆國の「コロラド」ハ洲小「オハヤガラ」と  
 いふ瀧あり高さ百六十尺世界中の名所あり

人間の地理

天然の地理ハ萬代不易小して開闢の始も今日  
 も大ひ小異あること小一さきども地球の面小  
 生きたる人の了簡を以て其地面を分ち其界を  
 定て各政府を立さバ人民共小その為筋を思と  
 ざるもの小一是即ち人間の地理小區別を生ト  
 世界中小國々の分るる所以ありこの區別ハ固  
 小人の作てしもの小是ハ萬代不易あるを得  
 争小由て師を起さるのり野心を抱て國を



盗むもの有り威力を以て土地を押領するもの  
 あり是即ち諸國の盛衰興敗の變ある所以あり  
 斯く人の意を以て勝手次第に定めたる國の界  
 ハ必すしも海陸山川の地理を目的とせば或ハ  
 唯双方の人の約束したる條約の書面小由ての  
 其界を守ることもあり然もども事實の便利  
 を謀り暴人の襲を防ぐためハ大洋又ハ山川  
 の筋又擡て界を立るを良とす  
 本編の始小も以へる如く世界中の人種を五小

分ちその容貌知愚同トからざるは世の國々の  
 風俗生産の道も亦一様ならず

⑤ 文明開化とハ都會を開き市町を立て住居の  
 處を定め安樂の家小居を事々物々ハ順序を建  
 へて心を勞し身を役し禮を重んじ義を貴ぶも

のを以ふ  
 ③ 蠻野とハ住居を定め空水草を逐て處を移し  
 或は牛羊を飼ひ或ハ鳥獸を捕て渡世するもの  
 を以ふ



右二様のものを尚又細小區別するれば左の  
 如し  
 第一を渾沌といふ蠻野の内ふても最も下等の  
 民ふて鳥獸の仲間を外ること甚と遠か  
 る阿非利加の内地新ぎんかあふたててヤ  
 どの土人こそありて一もかく廣き野原小  
 狢して獵澳を業とし或ハ虫を喰ひ或ハ野山小  
 生トたる木の實草の根を食物とす其人の性質  
 慈悲の心なくして互小相争ひ物事小迷ひ易く

一々人の道を知らざる甚とどきハ人の肉を喰  
 ふものあり其住居ハ常小家あり或ハ粗末なる  
 小屋楯を作て一村の趣を成すことも何れども  
 便利次第ふて忽ち散トその痕跡も見を農業を  
 勤めざまば五穀を喰ふを衣服も甚とだ見苦し  
 くして大抵裸体の者多し其知識ハ固よて狭く  
 文字を知らざる法律を知らざる禮義の道なく地面  
 の區別あり斯る愚民の内ふも矢張頭分のもの  
 ありて大勢を支配しその取扱ひ甚とだ暴虐無



道あり  
 第二を蠻野といふ渾沌の民よても一段上席あり支那の北方鞮鞞荒火野又ハ北阿非利加の土民等こをふる此種類の民ハ住居の家おく天幕を張て雨露を凌ぎ或ハ家を作るとても甚とど粗未たり水草の便利のためおハ其天幕又ハ家作を携へて處を移まことりその食物ハ牛羊の肉を喰ひ其乳汁を飲ミ稍農業の道を心得て五穀を喰ふ者もり蠻野の國おハ文字のきと

もこきを讀と書きまら者ハ甚とど稀あり藝術小至してハ最も拙くして道具仕掛の工夫を知らむ此人民を支配するものハおとるはくとて家筋の人あり下々の者ハこの人を親分として君父として恭ひ尊びその法甚とど不人情ありて暴り  
 第三を未開又ハ半開といふいまだ真の文明開化おハ至らざりてあつを開けわたりたるものかきども蠻野小較をバ遙お上等あり農業の道



よく行届て食物多く藝術も進で次第小  
 巧小趣き都會を開き家居を飾り文字學問の道も隨分  
 盛なり但し嫉妬の心深くして他國の人を忌  
 嫌ひ婦女子を輕蔑し弱きを苦くむる風あり  
 支那土留古邊留社等の諸國ハあつたを開けたる  
 ものといふ  
 第四を文明開化といふ禮義を重んじ正理を貴  
 び人情穩小して風俗やさしく諸職の術ハ日小  
 新小して學問の道ハ月小進し農業を勤め工作

を勵み百般の技藝盡さるものあり國民業を  
 安んじて天の幸を受け亦頼母しく自から満足  
 せり亞米利加合衆國英吉利佛蘭西日耳曼和蘭  
 瑞西等の諸國ハ文明開化の域不至るものとい  
 へふ  
 世界中ハ帝國あり王國あり公國あり侯國あり  
 或ハ共和政治の國あり帝國とハ帝の支配する  
 國あり魯西亞埃地利佛蘭西の如きとあり王  
 國とハ王の支配する國あり英吉利普魯士西班牙







英吉利の首府あり  
 政府の体裁とハ其國を治むる法の立方を以ふ  
 その種類三あり  
 第一を以てあるまじきといふ立君の義あり立君とハ  
 一人の君を立てて其國を支配せしむることあり譬  
 一ハ英吉利佛蘭西魯西亞其外の國々ハ皆立君  
 の國あり立君の政体を又二種に分ち一を定律  
 立君といふ國君一人小て政事を自由かせむ國  
 内の議事院として評定所を開き國中一同の入り札

小て人物を選び毎年この評定所集りて法律  
 を定め掟を設け一人の君とて國の掟を破  
 得ざるよし小したるものあり譬へば其國の君  
 不行状小て奢を極め或ハ妄小師を起して國中  
 へ用金おどひひ付んとするも議事院の評議小  
 て決して許さず都て君の威權ハ甚だ弱く國を  
 先小して君を後小するの趣意あり英吉利和蘭  
 西班牙等の如きことあり又一種のありあるを  
 獨裁立君といふ國小君を立てその君一人の勝手



次第ついでして政事せいじを擲なげき國民こくみんの生命せいめいも君きみのものか  
 らといひ上あたる人の意いも非あけバ罪つみなき者ものをも  
 殺ころすといひたり國民こくみんの家藏けさう身代みしろも君きみのものあり  
 といひ上あたる人の見み込こ次第ついでして妄あやか年貢ねんきん運上うんじやう  
 を取と立て或あるハ罪つみハ陥おち入いりて欠所けつじよおぼること  
 何事なにごとも一人ひとりの了簡りやうかんして天下てんかを私しするものか  
 り魯西ろせい亞土あつ留古りうこ支那しな等らうの如ごとく其君そのきみ若ごとく賢明けんめいな  
 る人物じんぶつしてよく心こころを用もちきバ國治こくちらざるハ何なに  
 ぞととも萬一まんいつ無學むがく文盲ぶんもう自みづか終しゆうハ増長ぞうちやうするも

きハ民たみの難がた澁しぶ一方いつぱうおらむことを暴君ばうきんといふ  
 第二だいにの政体せいたいを貴族きしやく合議がうぎといふ家柄けあひの貴たかき人ひと々  
 寄集よひありて政事せいじを取扱とふものあり  
 第三だいにを共和きやうわ政治せいぢ或あるハ合衆がしゆう政治せいぢといふ國中こくちゆうの人  
 民たみ申合まうあして政事せいじを擲なげくものあり共和きやうわ政治せいぢの趣おも  
 意いハこの世よハ生なまきたる人ひとを同どう等とう同格どうかくのものとい  
 定め其論そのろんハ云いく凡たゞそ人ひとたるものハ各おの各おの精せい心しんたり  
 身体てんたいたり貴たかき人ひととして此こ精せい心しんを二ふた通と具ぐふるも  
 何なにらむ手足てあしを八本はつぽん持もちたも何なにらむさむを天然てんぜんハ



貴賤のちるがれよふあー況して歴代の家柄の  
を口實ふしてたまく其人小才徳はきバ格別  
あまじも若し然らざして唯其位の人の上小  
立ち心ハ賤くして我俸を逞ふまるとは下々  
の者ハたとい人小勝きたる才徳はるも暴人の  
下小恐入て百姓町人ハ汗を流して家業を管  
一錢づつ貯へたる金をもかーうに齋ふさらた  
る如くいつの間小うハ取上らま上の人の我  
俸放盡し元入まる姿あまバ大ひ小天理小矣

て畢竟世の中政府を立るも國中不正ある  
事行ハせざるよふ人々の生命の危うらざる  
よふ其身代を失たざれよふ他國の侮を受けざ  
るよふ其取締をふし其守護を設るため小役人  
をもこしらへ武備をも整へ農工商よりその入  
用を拂ふ訳あまバ譬へバ下々の者ハ金を拂ふ  
て物を買ふが如し直段ハ成丈け安くして品柄  
ハ成丈け上物を選べき苦力を然る小其代金を  
かま渡して品物をバまるとで請取らぬめとく却



て其金をたゞ奪ひし者のたれか痛らるゝあど  
 のごとく巧みてハ以ての外あり害ありて益なき  
 ことあり故小貴賤上下歴代家柄あどりの話ハ打  
 止め人々其天然の心を勞し其天然の身を働  
 一他人の妨をおさむし共々其身を守り其  
 父母妻子を養ひ其家を治め其國を建て趣意未  
 き命令を下すもゆるをあく趣意なき其税を取立  
 るものもあく天下太平國家安全を致すを  
 右の議論も據をバ政府もなきて済むべきよふ

おどども人の心の同トからざるハ其面体の各  
 異あるが如し且天下の人萬人ハ万人皆善人  
 もあらざるハ争論なきこと能く故小國中の  
 人申合せ入札を以て人物を選び政事の頭取を  
 立て評議の役人を以てひ付け在役の年限中ハ相  
 當の給金を取らして政を為さし専ら國中一  
 同の便利を謀り外國へ對して侮を受けず國威  
 を海外おすて懼らざるを趣意とせし亞米利加合  
 衆國もてハ此頭取を以てとてんとし以て在役



第四大學區

第十九中學區

大東小學

亞米利加合衆國の議事院



上席の者ハ六年交代下席の者ハ二年交代あり

世界國畫附録終

四年交代一年の給金二萬五千圓の役人ハ上席と下席と兩様あり

昭和八年一月十六日



